

## 腸内容物から見たハダニ捕食性 *Stethorus* 属テントウムシ

### シ 2 種成虫の野外での餌利用状況

○岸本英成（果樹研カンキツ）・前田太郎（農生研）・David G. James（ワシントン州立大）

*Stethorus* 属テントウムシは、ハダニ類の捕食性天敵として世界的に知られ、日本国内ではキアシクロヒメテントウが主要土着種として挙げられる。本属はハダニ捕食量が極めて大きい一方で、その餌要求量の高さのため作物上での発生が不安定であるという欠点を持つ。そのため、本属を農生態系内で安定的に維持し、天敵として有効利用するためには、野外での食性、特にハダニ低密度時に利用する餌の解明が必要である。本属はこれまでハダニ専門食と考えられてきたこと、さらに、ハダニの捕食性天敵類は体サイズが微小で野外での食性調査は一般的には困難とされたため、本属における野外での餌の利用状況は未解明であった。しかし、本属では、野外で採集した成虫を解剖して腸内容物を観察することにより、捕食した餌の特定が可能となった。そこで、日本土着種のキアシクロヒメテントウ *Stethorus japonicus* と米国土着種 *Stethorus punctum picipes* を対象に、果樹および周辺植生で採集された成虫が捕食した餌メニューを調査した。両種とも、ハダニ類の発生が見られた植物で採集された個体の腸内からは、ハダニ類の体の一部が見つかる場合が多かったが、それに加えて、ナガヒシダニ類、フシダニ類およびカブリダニ類も見つかった。特に、ハダニ類の発生が見られなかったブドウ園で採集した *S. punctum picipes* 成虫の腸内からは、ナガヒシダニ類、フシダニ類およびカブリダニ類が見つかる場合が多かった。また、サクラで採集したキアシクロヒメテントウ成虫の腸内からもフシダニ類が多く見つかる場合があった。以上の結果から、両種成虫はいずれもハダニ類を主な餌としているものの、それ以外の様々なダニ類も捕食していることが明らかになった。



キアシクロヒメテントウ成虫



腸内から見つかったフシダニ類の体の一部